

研究紀要（第10号）刊行にあたって

つくば国際大学研究紀要委員会

委員長 小林 迪夫

つくば国際大学研究紀要第10号が刊行されることとなりました。

本学におきましては、平成6年4月の開学以来、毎年度1冊の研究紀要を刊行して教員の研究業績発表の機会を作って参りました。

いうまでもなく、大学の使命としては、学生の教育と教員の研究による資質の向上という2つの柱があり、この2つは相互に密接にかかわりあっています。

とくに大学教育の中心となる教員は、常に新しいもの、時代に合ったものを求めて、日々研究活動を行うことによって学問的業績を積み上げ、それぞれの学問全体の向上に資するとともに、それらの成果を学生の教育の場に反映させて、学生の資質を向上させる責務を負っております。

大学の研究紀要は、関係する大学や研究所等に広く配布されるため、とくに将来のある若い教員にとって、それぞれの研究成果を、各大学内部のみならず、関係者に広く知らせる機会ともなるため、その重要性は極めて大きいといえましょう。

本年は、教員各位の努力により、例年よりも多い12編の研究成果を収録することができましたことを大変うれしく思います。

なお、今回は、発刊以来10冊目に当る記念誌的性格を有するため、創刊以降前回までの目次を付録として載せることとしました。

本紀要が前回までの刊行分と合わせて、広く活用されるとともに、本学の研究紀要が益々充実されることを心から期待しております。

2004(平成16)年3月